



## 薬の伝言板 機能性ディスペプシア

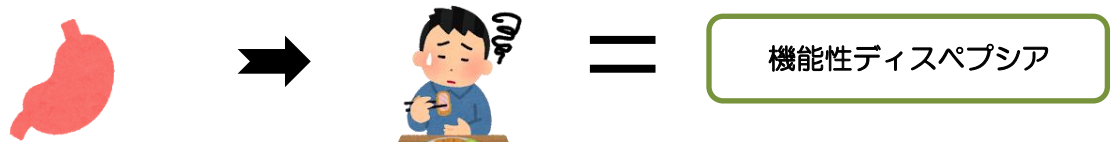
No.282 2021年5月

丸子中央病院 薬局

機能性ディスペプシアとは、症状の原因となる器質的、全身性、代謝性疾患がないにもかかわらず、慢性的な上腹部痛や胃もたれなどの心窩部痛を中心とする腹部症状を呈する疾患です。わかりやすく言えば胃カメラなどで、検査をしても異常がみられないのに、もたれや痛みなどの症状はあるという疾患です。



検査で胃酸の逆流や潰瘍がみられ、胃もたれの症状がある



検査で異常のない胃でも、胃もたれの症状がある

### 機能性ディスペプシアの原因

胃運動機能異常、内臓知覚過敏、ヘリコバクター・ピロリ感染、胃酸分泌異常、遺伝的要因、心理的要因、消化管感染後の残存炎症、食事生活習慣など様々な因子が関与していると考えられています。



ピロリ



心理的



胃酸



遺伝 など様々

### 機能性ディスペプシアの分類

食後愁訴症候群（PDS）と心窩部痛症候群（EPS）に分類されます。

#### ●食後愁訴症候群（PDS）

運動機能異常から、「食後のもたれ感」や「早期満腹感」が症状として現れます

#### ●心窩部痛症候群（EPS）

内臓知覚過敏から、「心窩部痛」や「心窩部灼熱感」が症状として現れます

## 機能性ディスぺプシアの治療

- ① 初期治療として、消化管運動機能改善薬や酸分泌抑制薬が有効とされています。
- ② 2次治療として、初期治療で効果不十分の場合、漢方薬、抗不安薬、抗うつ薬などへの変更や併用が勧められます。
- ③ ヘリコバクター・ピロリ陽性の場合、まず除菌療法が推奨されています。



|            | 分類            | 薬   | 機序                                     |
|------------|---------------|---|--|
| 消化管運動機能改善薬 | 5-HT4 受容体作動薬  | モサプリド (ガス矽)   | 神経叢に存在する 5-HT4 受容体に作用し、消化管運動を促進します     |
|            | コリンエステラーゼ阻害薬  | アコチアミド (アコファイド)                                     | コリンエステラーゼ阻害作用により、消化管運動を促進します           |
|            | オピオイド受容体作動薬   | トリメブチン (トルキソ)                                       | 消化管への直接作用と、オピオイド受容体を介し、腸管運動を調節します      |
|            | D2 受容体拮抗薬     | メトクロプラミド (プリマール)<br>ドンペリドン (ナゼリ)                    | 副交感神経末端で D2 受容体遮断作用により、消化管運動を促進します     |
| 酸分泌抑制薬     | プロトンポンプ阻害薬    | ランソプラゾール (タプロール)<br>エソメプラゾール (ネソラム)<br>ボノプラザン (タケボ) | 胃粘膜壁細胞のプロトンポンプを阻害し、酸分泌を抑制します           |
|            | H2 受容体拮抗薬     | ファモチジン (ガスター)<br>ラフチジン (プロラジン)                      | 胃粘膜壁細胞の H2 受容体をヒスタミンと拮抗することで、酸分泌を抑制します |
| 抗不安薬       | ベンゾジアゼピン系抗不安薬 | エチゾラム (デパス)   | GABA 受容体の作用を増強し、神経活動を抑制することで抗不安作用を示します |
| 漢方薬        | 漢方薬           | 六君子湯  | 食後のもたれ感や早期膨満感を改善                       |
|            |               | 安中散   | 心窩部痛や心窩部灼熱感を改善                         |



機能性ディスぺプシアは器質的疾患がなく生命予後は良好の疾患です。しかしながら慢性胃炎や胃潰瘍などとは異なり、症状が多様で一度治ってもまた再発することがきわめて多いといわれています。場合によっては精神的な要因が関与している事もあるため、医師と良好な信頼関係の上でじっくりと治療する必要があります。気になる症状があれば当院にご相談ください